

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	心を開放する行事や自己肯定感を高める取組を工夫し、楽しい学校づくりに努める。 情報DXを推進し、授業や生活の場面で児童の思考力等を高め、児童の生きる力を育む。	A	児童の発案で、今年度新しく児童会イベント「スマイルクイズラリー」を行った。 児童が互いの良さを伝え合う「良さ見つけ」の取組を工夫した。 授業でのタブレットの有効な活用方法を全職員で研究した。 児童にデジタルシチズンシップ教育の授業を行い、情報DXを推進した。	新聞などのマスコミで、多くの行事が取材され、報道された。学校が様々な行事を工夫していることがよくわかった。 授業参観で、児童がタブレット端末や電子黒板を有効活用してよかった。 仲間と良さを見つかけ合い、伝え合う活動がどの学級にも位置づいてよかった。	学校生活を楽しくする創造的な学級活動と児童会活動(学級遊び、縦割り遊び、児童会イベント等)を行う。 学校を楽しむために、「わくわくタイム」を新設する。 授業でのタブレット端末等の有効な活用方法について全職員で研究を深め、児童の情報DXを推進する。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	「ぎふMirai's」を活用した取組や探究活動の充実を目指す。 学校運営協議会や地域講師、「北っ子広場」の中学生ボランティアなど、地域や保護者、中学校との関係強化を図る。	B	「ぎふMirai's」を活用して、地域のことを学んだり、地域の人々の生き方に学ぶことができた。 北っ子広場のボランティアを中学生に依頼し、多くの中学生が参加した。 気象警報発令への対応について、中学校との連携を密に行い、保護者が困らないよう配慮した。	地域行事に進んで参加する児童が大変多く、ありがたい。企画運営する地域の方々のやりがいになっている。 子どもを育むことで地域がよくなるという校長の話はよくわかり、腑に落ちた。 学校は地域との関係を大切にしている。今後この関係を大切にしていきたい。	地域と共に学び、成長することについて、児童に意味指導をしたり、地域の人々から学ぶ視点、地域の人に質問をするときの視点を指導したりして、「ふるさと学習」「生きた方学習」を充実させていく。 小学校と中学校で、役職毎の連携を密にし、小中一貫した指導の充実を図る。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	業務の精選と教育DXによる業務の効率化を進め、働き方改革を推進する。 面談や打合せの校長の話などを活用して、職員間の温かい関係づくりと、指導力や勤務意欲の向上を図る。	A	業務の精選と教育DXによる業務の効率化を進め、働き方改革を推進した。以前と比較して、時間外勤務が月45時間以上の教員が減少した。 面談や打合せの校長の話などを活用して、職員間の温かい関係づくりと、指導力や勤務意欲の向上を図った。同僚の様子を気にかけて声をかけ合う職員95%。	校長の話聞いて、教員の長時間勤務や、教員志望者の減少、教員不足、教員の未配置など、日本の教育の危機的な状況がよくわかった。 早朝から勤務してくださっている先生がいる。働き方改革を推進したい。 祝日の地域行事への担任の引率は無くし、地域で対応していく。	働き方改革、働きがい改革の視点で常に教育活動を見つめ、様々な改善策を試行していく。 祝日の地域行事への担任の引率を無くし、地域で対応していただくことになった。 職員の教材研究の負担感軽減につながるように、部分的教科担任制を学校として進める。
子どもたちが安心して学べる学校づくり	道徳の研究授業と研究会を行い、道徳教育の充実を図ることにより、児童が互いの命を尊重し、安心して学べる学校づくりを進める。 いじめ防止の取組を推進し、児童理解とあたたかな人間関係がある学校を目指す。	A	道徳の研究授業と研究会を行い、道徳教育の充実を図った。「相手を思いやり、優しく接している」と答えた児童98%。 スマイルゴールドなどのいじめ防止の取組を推進し、児童理解とあたたかな人間関係づくりに努めた。「いじめはどんなことがあってもいけない」と答えた児童99%。	授業参観で、いじめ防止について学んでよかった。このような指導が大切である。全学年で指導してほしい。 どの学級にも、「スマイルゴールド宣言」が掲示され、いじめを防止し、温かい人間関係を育むための「スマイルゴールドの取組」が実践されていて素晴らしい。	児童が担任以外の先生にも気軽に相談できるようにするために、児童が第2の担任を選ぶ「マイセカンドティーチャー」の取組を新しく始める。 令和9年度のブロック人権研修を見据え、いじめがなく、互いの人権を尊重し合う、温かい仲間関係づくりの実践を蓄積していく。
災害、事故に対する安全性の確保	生徒指導事案に組織で対応し、児童と保護者が納得できるまで指導する。 登下校時の命の守り方も含めた防災意識の向上と、自分の命は自分で守れるような思考力と判断力を養う。	A	生徒指導事案では、速やかに情報共有と組織での対応を行い、児童と保護者が納得するまで指導することができた。 毎回異なるねらいをもった防災訓練を4回行い、児童の危機対応能力を高めた。「地震など自然災害から命を守る方法を理解し、行動できる」と答えた児童99%。	年賀状の一部に交通安全について記述し、大切な人に送るという取組が、地域の交通安全協会や郵便局と連携して行われていて、意義深い活動である。 登下校の見守りボランティアの方々を学校に招いて行う「見守り隊おれの会」は、地域の方々への感謝の気持ちと、交通安全への意識を高める活動になっている。	「命を守る訓練」について、毎回のねらいや想定を見直し、より合理的、実践的な訓練にしている。 令和8年5月の気象庁による防災気象情報の見直しに伴い、気象警報への対応について、中学校と連携して見直し、保護者にわかりやすく周知していくことで、児童の安全を確保する。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	安全点検と日々の気付きから、児童の生活環境を安全に整え、修繕や改修について関係機関と連携を図る。 管理職と事務が連携を密にして、学校予算を効果的に活用していく。	B	毎月、校内の安全状況を確認し、修繕が必要な個所は職員が修理したり、市に依頼して修繕することができた。 管理職と事務職員が連携を密にして、銀行の振込手数料の規定変更に対応することができた。	掲示に児童が位置づけ、教育環境が美しく整えられていてよい。 学校の北側は、生垣の剪定や雑草の刈り払いなど、大変きれいに整備されていてよい。比較的目的立っていない場所ではあるが、南側のプール付近もきれいにできるとよい。	学校の敷地内の、特に南側のプール付近の環境整備に努める。 国の給食費補助による給食費集金額の低額化に伴い、保護者の手数料負担と事務職員の作業負担を軽減させ、会計上のミスを減らすために、集金回数を見直し、保護者にわかりやすく周知していく。